

P1~3・6 企画展
膳所城と藩政

P4 ミニ企画展
大津の須恵器と生産遺跡
『大津市史』編纂の歩み

P5 学芸員のノートから

大津歴史博 だより

本多氏入封400年記念 企画展

膳所城と藩政 — 築城から幕末十一烈士事件まで —

平成30年3月3日(土)～4月15日(日)



大津・石山間湖岸風景眺望図 明治～大正時代写 膳所藩資料館蔵 縦 51.9 cm 全長 374 cm

大津町から石山寺までの湖岸を対岸や舟上から眺望した絵巻で、写真は膳所城の部分。本図は膳所藩最後の藩主・本多康稷やすしげの甥、本多亀男が写したもので、原本は大正 12 年（1923）の関東大震災で失われたとのこと。

膳所城と藩政 — 築城から幕末十一烈士事件まで —

会期：平成30年3月3日（土）～ 4月15日（日）

【休館日：月曜日、3月22日】

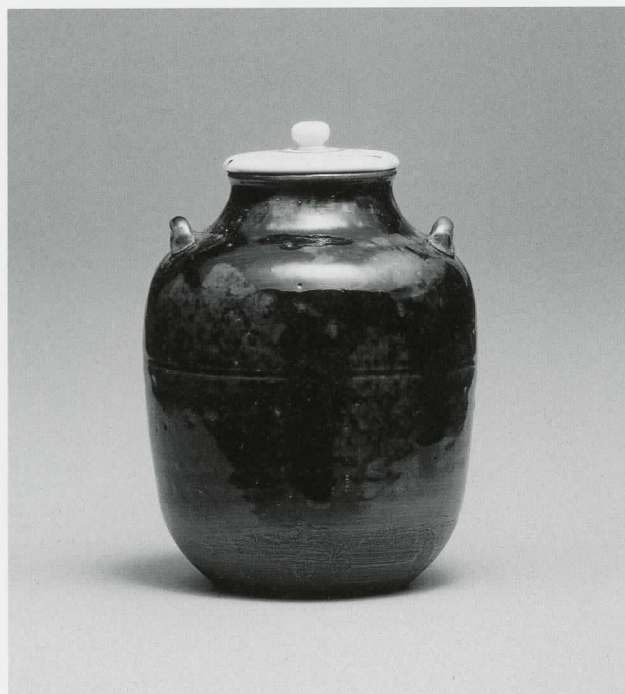
膳所藩は、本多氏が歴代の藩主をつとめたことで知られています。平成 29 年（2017）には、本多氏として最初の膳所藩主となった本多康俊が就任した元和 3 年（1617）から数えて 400 年という節目の年を迎えたことから、今回それを記念し、膳所藩に焦点を当てた企画展を開催するものです。

膳所藩では、関ヶ原の戦いの翌年、慶長 6 年（1601）から 17 世紀の半ばまで、藩主は幾度も交代しています。最初は、戸田氏が 2 代（一西・氏鉄）、次いで、先に挙げた本多康俊から俊次へと続くのですが、その後、いったん菅沼氏、石川氏（2 代、忠総・憲之＝昌勝）に代わり、慶安 4 年（1651）本多俊次が再任されて以降、明治維新まで、本多氏が代々藩主を世襲することになったのです。

ただ、頻りに交代した藩主が、徳川家ゆかりの譜代大名であったことは注目すべきでしょう。関ヶ原の戦いに勝利したとはいえ、大坂冬の陣、夏の陣が終わるまで、豊臣家は命脈を保っており、豊臣家滅亡以後も、江戸に本拠を置く徳川政権にとって、畿内近国を東から抑える位置にあった膳所藩は、幕府にとって大切な意味を持っていたのです。俊次の代からは、禁裏（京都御所）の火の番や、交通の要衝であった瀬田橋の修築、管理などの役割を担い、その役割は幕末まで変わることなく続きます。また幕末動乱の渦中、膳所藩でも尊王攘夷運動が盛んとなり、十一烈士の処刑という悲劇的な事件を経験し、明治 3 年（1870）の膳所廃城、翌 4 年の廃藩置県を迎えるなかで、約 270 年の歴史を閉じることになったのです。

本展では、膳所城と城下の様子、合戦における家臣の陣立てなどを描いた屏風絵、藩校・遵義堂や膳所焼に代表される教育と文化、近江や河内国内の藩領の様子、そして幕末の十一烈士事件（「学芸員のノートから」参照）などを、絵画、歴史、古文書、工芸などの資料によって紹介します。

なお、本展の開催にあたっては、昭和 45 年（1970）の開館以降、膳所藩資料の展示と普及に努めてこられた膳所藩資料館（大津市御殿浜）の全面的なご協力により、同館所蔵の資料も数多く展示させていただく予定です。ご期待ください。



膳所 鉄釉耳付茶入 銘童女 江戸時代前期 高さ 7.5 cm 本館蔵

【インフォメーション】

観覧料：一般 600 円（480 円） 高大生 300 円（240 円） 小中生 200 円（160 円）

※（ ）内は、前売り、15 名様以上の団体、大津市内在住の 65 歳以上の方、大津市内在住の障がい者の方と介護保険の要介護者の方、または要支援者の方の割引料金（証明するものをご提示ください）。

主 催：大津市、大津市教育委員会、大津市歴史博物館、京都新聞

協 力：膳所藩資料館

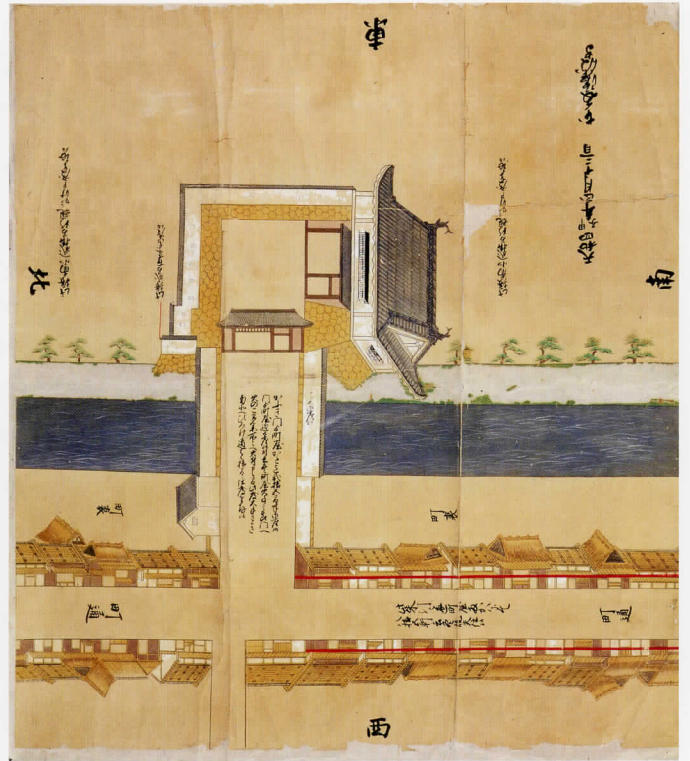
後 援：NHK 大津放送局・BBC びわ湖放送・エフエム滋賀

企画展「膳所城と藩政」のおもな展示作品



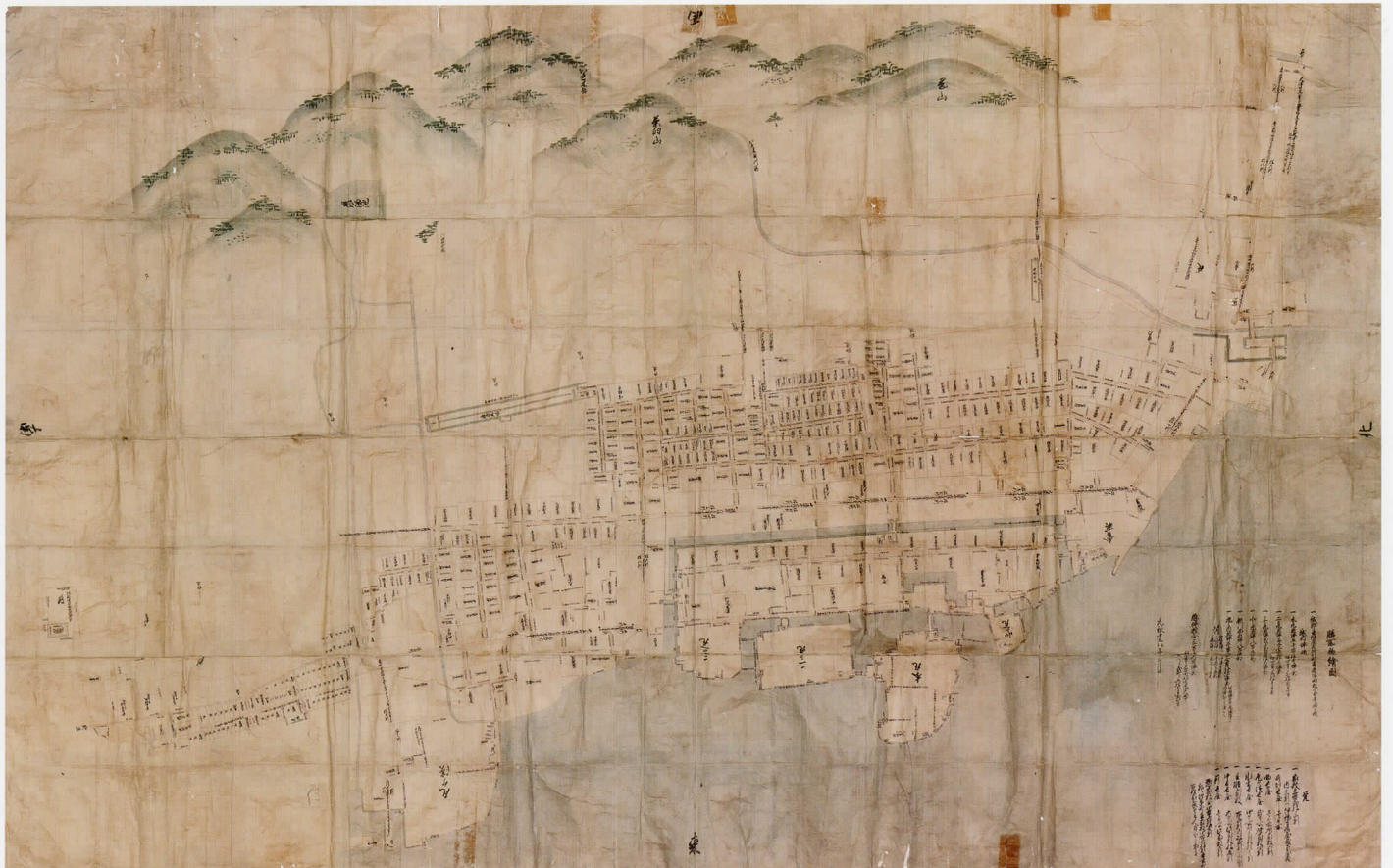
膳所藩陣立図 江戸時代後期 膳所藩資料館蔵
縦 186 cm 横 514 cm (一隻分)

膳所本多家の戦備えを描いた屏風です。「本」の文字の旗指物を具足の背に指し、整然と隊列を組んでいます。



膳所城かぶき門前普請絵図 天和4年(1684)
滋賀県指定文化財 滋賀県立図書館蔵 縦 72 cm 横 64 cm

城下で発生した火災により中大手門の一部が類焼したことから、防火のため門前の道を拡張したときに作られた絵図です。堂々とした中大手門の構造や東海道筋に藁葺きの町家が並んでいた様子が分かります。



膳所総絵図 大津市指定文化財 元禄15年(1702) 個人蔵 縦 212 cm 横 332 cm

膳所城と城下を描いた絵図としては最も詳しく、本丸をはじめとする城郭の規模や城下の侍屋敷や寺社の配置、東海道筋の町名などが詳細に記されています。

大津の須恵器と生産遺跡 —山ノ神遺跡—

会期：平成30年1月16日（火）～ 3月11日（日）
 【休館日：期間中の月曜日（2月12日を除く）、2月13日】

須恵器は、密閉した窯の中で硬く焼き締められた土器で、古墳時代中頃（5世紀前半）に朝鮮半島から伝わった技術によって生産が始まりました。須恵器を焼いた窯跡について、大津市内の発掘調査事例は多くはありませんが、7世紀代、大津宮の時代に操業していた瀬田丘陵の山ノ神遺跡や、平安時代の須恵器窯跡が見つかった堅田丘陵の仰木遺跡などがあります。山ノ神遺跡の出土品といえば、4号窯跡から出土した4基の大型の鷗尾が有名ですが、今回は須恵器生産に注目し、窯の構造やその周辺から出土した様々な須恵器を紹介します。



山ノ神遺跡4号窯（古）の遺物出土状況
 大津市教育委員会蔵

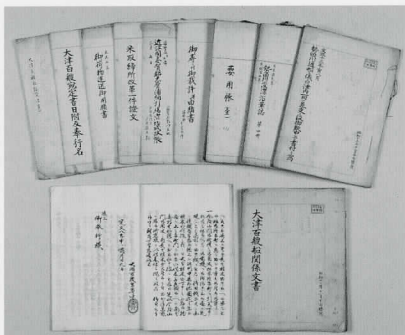


山ノ神遺跡出土の須恵器
 大津市埋蔵文化財調査センター保管

『大津市史』編纂の歩み —大津の古文書10—

会期：3月13日（火）～ 4月15日（日）
 【休館日：期間中の月曜日、3月22日】

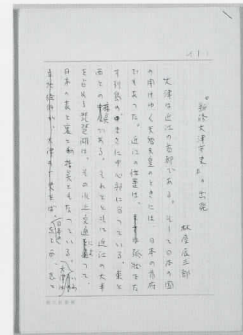
大津では、明治時代から現在に至るまで、いくつもの『大津市史』が作られてきました。明治44年発刊の『大津市志』にはじまり、昭和17年発刊『大津市史』、昭和37～38年発刊『新大津市史』、そして昭和53年～62年発刊された『新修大津市史』です。いずれも市制施行や皇紀2600年記念など節目の年に、その時代の新たな市域の歴史を編纂したものです。本展では、それらの編纂過程で収集・利用され、現在当館に移管・寄託された古文書・歴史資料を展示し、あわせて大津の歴史が編纂されていった歩みを紹介します。



昭和17年発行『大津市史』編纂資料謄写本
 （昭和時代）本館蔵



大津御用米会所要帳（江戸時代）
 本館蔵 各『大津市史』に利用された古記録



林屋辰三郎氏筆「『新修大津市史』の出版」原稿
 （昭和時代）

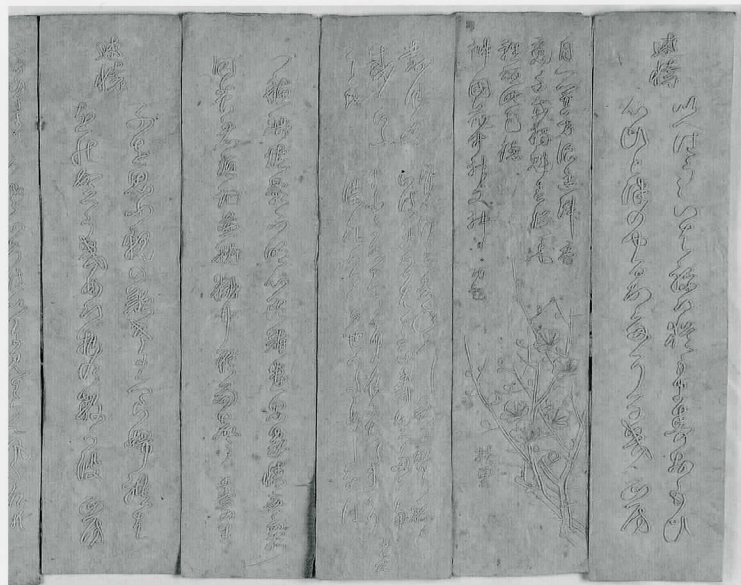
幕末膳所十一烈士の遺品

慶応元年（1865）閏5月、膳所藩の尊王攘夷派が逮捕、投獄されますが、それは、長州征討に向けて将軍・徳川家茂が上洛する途中での出来事でした。家茂上洛の次第は『続徳川実紀』に記されていますが、それによると、閏5月19日、家茂一行が愛知川の河川氾濫によって足留めされていた時に、明後21日、膳所城に泊まる予定だが、「御都合」もあるので大津宿に宿泊する、と通達されたことが分かります。膳所藩尊攘派の逮捕は、それより5日前の閏5月14日に始まり、11名の藩士が揚り屋（未決囚の監獄）に入れられたのです（『殉節緯』）。彼らは、日頃から攘夷の旗頭であった長州と通じていたことから、長州征討のために上洛する徳川家茂を阻止する動きがあったとしても不思議ではありません。ただ、阻止するために、瀬田橋に仕掛けた「地雷火」を発火させ、その騒動に乗じて「玉躰（天皇）を十津川え供奉」する計画があったとか（『中山忠能日記』）、地雷火を仕掛けたのは膳所泊城中の将軍の寝所であったとか、釣り天井を設けたなど（『懐郷坐談』）、にわかには信用しがたい計画が噂として流れていたのです。また、その方法はともかく、上洛を阻止する計画があったかどうかさえ不明です。ただ、膳所以外で将軍上洛をめぐる不穏な動きがあり、家茂が彦根城に泊まっていたときにも、「防長賊徒」どもが、本国を脱走し諸所に潜伏しているという噂もあるので、見付け次第速やかに取り押さえ、または打ち捨てるように、といった通達が出されていたことも確かです（『続徳川実紀』）。

さて、このとき逮捕されたのは、保田正経、田河武整、阿閉信足、榎島光明、森祐信、高橋正功、高橋幸佑、関敏樹、渡辺緝、増田正房、深栖當道の11名で、10月21日、うち身分が上位であった保田、田河、阿閉、榎島の4名が切腹、その他の7名は斬首となったのです。逮捕されてから処刑までの5ヶ月（保田・田河・阿閉は4ヶ月）、彼らに対しどのような取り調べがなされたのかも不明ですが、獄中で認めた遺書や辞世の句などが膳所藩資料館に伝えられており、今回の企画展にも出陳させていただくことになりました。その中には、筆と墨ではなく、紙撚を張り付けて和歌や漢詩を綴ったものが含まれています。紙撚字については、別に烈士のご子孫から歴史博物館にご寄贈いただいたものも合わせ（写真右）、今回はできるだけ多くの作品を展示しようと考えています。

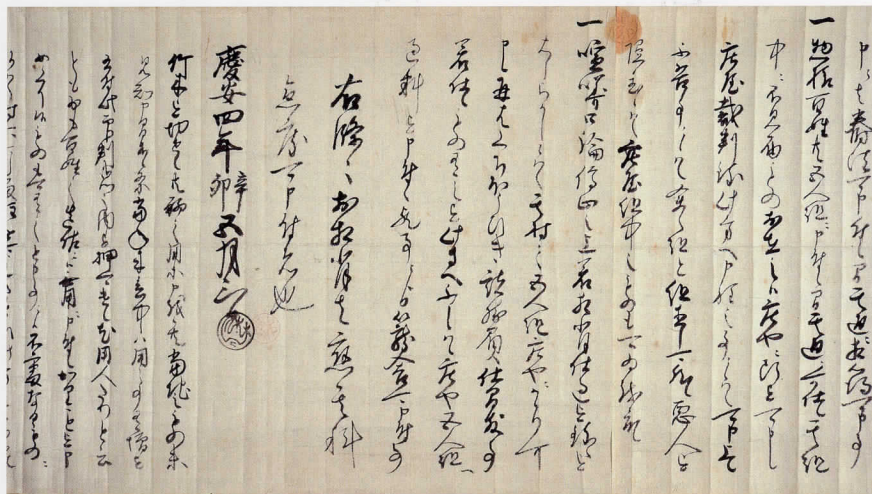
また、烈士の一人高橋幸佑は、紙撚ではなく、なんと糸を張り付けて綴った長編の和歌を折帖本に装丁し、表紙題箋に紙撚字で「玉手箱」の標題を貼付したものを遺しています（6頁の写真参照）。また、松の巨木や蓮の華、富士山、朝日などの絵も、紙撚や糸によって「描いて」いるのです。死に臨んで遺した、烈士の鬼気せまる作品の数々を、企画展でご覧いただければ幸いです。

（館長 樋爪修）



膳所藩烈士紙撚字短冊 慶応元年（1865）本館蔵

慶応元年に逮捕、処刑された烈士が遺した紙撚字の和歌短冊です。写真には、述懐と題した増田正房の和歌、高橋正功の漢詩と同幸佑による梅花図などが見えています。

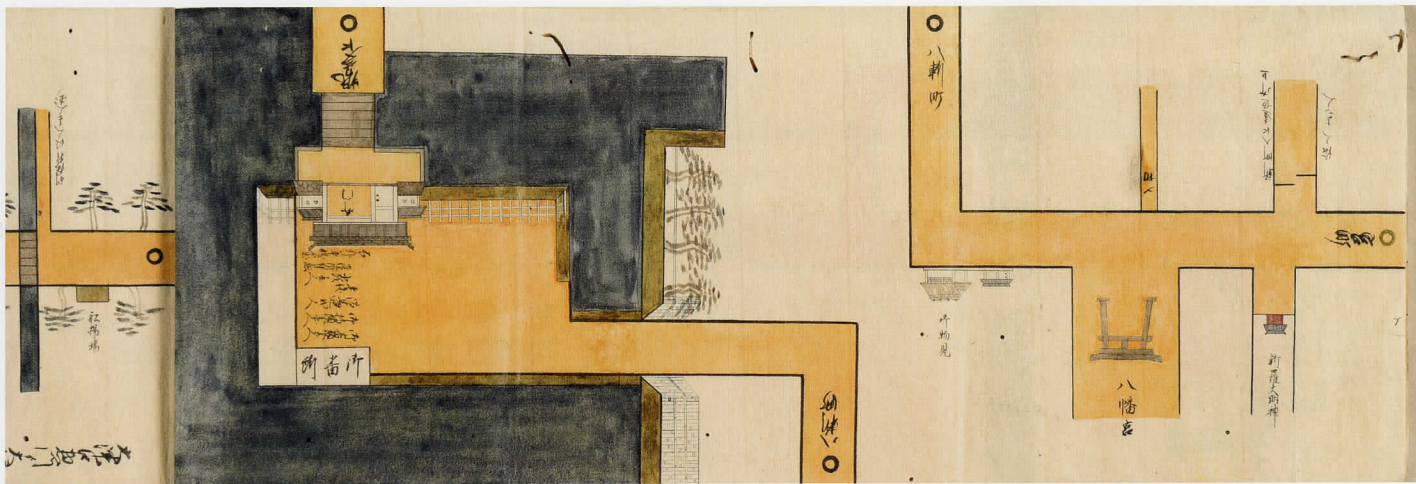


本多俊次領内定書 慶安4年(1651) 個人蔵 縦34.2cm 全長416.2cm

本多俊次が膳所藩領内の各村に対して出した定書。写真は巻末部分。年号月日の下に丸い黒印(糸印か)が押されています。



糸文字の和歌 作・高橋幸佑 膳所藩資料館蔵
縦16.2cm、全長117.0cmの折帖本の冒頭部分。



寿明君様江戸御下向につき膳所城下他道筋絵図 嘉永2年(1849) 膳所藩資料館蔵 縦16.8cm 横44.3cm

寿明君とは、後に13代将軍となる徳川家定に嫁いだ一条秀子のこと。膳所城下通行に際し、道筋警固などのために造られた絵図で、警備状況とともに当時の城下の構造が分かり貴重です。

利用案内



交通機関

- ・京阪電鉄石山坂本線別所駅 徒歩5分
- ・JR 大津駅 徒歩15分

駐車場 約70台(無料)

常設展示観覧料

区分	個人	団体(15名以上)
一般	320円	250円
高校生・大学生	240円	190円
小学生・中学生	160円	120円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方は一般料金の半額。
- ◆市内在住の障がい者の方、市内在住の介護保険の要介護者の方・要支援者の方は無料(証明するものをご提示ください)。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

開館時間

午前9時～午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

休館日

月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館)
祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
年末年始(12月27日～1月5日) 館内点検(6月)
その他、業務の都合により休館する場合があります。

歴博カードのご案内

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。(年間有効)

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号
TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

大津歴博だより No.109 平成30年1月15日